会議名称：全学教育推進機構　自己点検・評価委員会
日時：令和8年5月14日（木）審議期限
場所：メール審議

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	2025年度の本プログラムにおける学生の受講状況，そして受講後に収集したアンケートより，本年度のプログラムの履修・修得に関する情報は次の通りとなった．学習マネジメントシステムに登録された履修者は1038名であった．2024年度の627名，2023年度の714名，2022年度の445名，といった履修者の変遷から見ると，非常に多くの学生の履修を得ることができたと考えられる．履修者の内訳をみると 四年生が45名，三年生が84名，二年生が206名，一年生が704名であった．1038名の履修者のうち，832名が合格し単位を取得した．合格となった学生の平均点は，81.7点で，成績の分布は秀：21%，優：27%，良：23%，可：9%，不可：20%となった．2024年度のプログラムでは，平均点は79.7点，秀：15%，優：24%，良：21%，可：14%，不可：26%であった．データの比較からは，可，不可から上位の成績に学生がシフトしており，平均点についても改善がみられていることがわかる．これらはの改善の背景には，授業中盤で実施した，教材の閲覧状況を成績に加味するアプローチの効果もあるものと考えられる．今年度については，第4回から第8回の合計5回の授業会について，オンデマンド配信した教材について受講者の閲覧ログを詳細に取ることができるシステムを利用した．これにともなって，学生に対して，動画教材の閲覧状況を成績に加味して評定する（該当授業回については，テストの評価を80%，閲覧情況に対する評価を20%とする対応について，シラバスに記載のうえ実施した），というアナウンスを実施した．授業期間中のQ&Aでは，閲覧状況に関する質問が寄せられるなど，受講者は動画閲覧の確認が行われていることについて，強く意識がなされていたものと考えられる．このアプローチは，今期の成績向上の要因としても関わっているものと考えられる．
学修成果	前述の通り，合格者の平均点は81.7点となり，課題の内容理解において，十分な成果が得られているものと考えられる．授業後に学生に対して実施したアンケート調査の質問，「この授業を通じて，知識が深まった，能力が高まったと感じますか」という項目については，192名の回答中「そう思う，どちらかと言えばそう思う」は，174名となっており，高い評価を得ることができたものと考えられる．他方，合格者の課題の提出回数は平均14.0回となり，前年度の平均14.2回から低下が見られた．合格者について提出回数の平均が低下しつつも，平均点自体は向上していることから，各課題のスコアとしては改善が見られた可能性がある．一方で，この平均点には，第4～8回の評価方法の変更による影響も考えられるため，さらなる分析が必要である．
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	前述のとおり，授業後に学生に対して実施したアンケート調査の質問，「この授業を通じて，知識が深まった，能力が高まったと感じますか」という項目について，高い評価を得ることができたものと考えられる．また，「この授業に意欲的にとりくみましたか？」という質問に対しては，「そう思う，どちらかと言えばそう思う」の回答は170名となり，こちらについても高い評価を得ることができたと考えられる．成績の分布状況についても加味すると，本授業の合格者は，真剣に授業に取り組み，学びに十分に集中し，理解を深めたことができたものと考えられる．
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2025年度の受講者数は初めて千名を超え，本学における学生の学びの選択肢として，「AI・データサイエンス入門」が定着してきているものと考えられる．前述の通り，一年生の履修者は704名で，受講者の67%を占める状態であり，新入生に対して充分な周知が進んでいるものと考えられる．MDASH応用基礎レベルに対応した「KONAN 数理・データサイエンス・AI教育プログラムNEXT]が2025年度入学生よりスタートしたことも,履修者が増加した遠因と考えられ,今後の履修率向上が見込まれる．
授業改善の取り組み	2025年度については，MDASHリテラシーレベルのモデルカリキュラムの更新にあわせ，生成AIの内容を拡充するなど，最新のテーマに適応するようにカリキュラムを見直しを図るとともに，前年度までの授業の状況を振り返り，各担当教員がそれぞれ授業改善を実施した．ここまでで言及した受講状況のデータやアンケートの結果から，学生を惹きつけ学びを深めるための授業に向けた進展がみられているものと考えられる．また，授業教材に関するアンケート項目「テキストおよび講義資料等は、授業を理解するために十分な分量・内容だったと思いますか？」の質問では，192名の回答中，85.9%の学生から，「そう思う・どちらかといえばそう思う」との回答が得られた．この項目は，2024年度は82.7%，2023年度は72.2%，2022年度は64.7%となっており，継続的な改善がみられていると考えられる．一方で，アンケートの回答者は，2025年度は1038名中192名（18.4%），であり，2024年度の672名中163名（24.3%），2023年度の714名中246名（回答率34.5%），2022年度の445名中252名(56.6%)と回答率の低下が続いている．アンケートに回答する学生は，授業に満足した学生に偏っている可能性があり，授業状況の把握のためにもアンケート回答率改善の働きかけが必要である．また，2026年度には，2025年度で利用した閲覧ログを詳細に把握する配信システムの利用は行われない予定であるため，学生への働きかけの方策についても検討をする必要がある．